

澁川市こども発達相談室ニュース 2021年3月号

～本格的なスギ花粉飛散の時期がやってまいりました、辛いですね、そして薬飲むと眠たくなりますよね。～

今月のテーマは、「きつ音」です。



幼児期には20人に1人が発症する「きつ音」。成長とともになくなるケースが多いと言われています。「きつ音」には、同じ音を繰り返して発する「連発」、音を伸ばして発する「伸発(しんぱつ)」、そして言葉が出づらい「難発」の、3つの症状があります。幼児期には20人に1人が発症しますが、成長とともになくなるケースが多いと言われています。

きつ音があるお子さんの多くは、頭の中に話したいことがいっぱいあるが、それをうまく言葉に表現できない状況になっていると考えられます。また、きつ音のあるお子さんの中には、新しい場所やヒトが苦手だったり、他の人からの評価を気にしたり、ちょっとしたことですぐにくじけてしまったりするような「繊細」なお子さんがあることが知られています。そこで、きつ音のお子様と接する際は、これらの特性に合わせた「特別な環境」を作ることが効果的です。

- お子さんとお話をする時に話しかける大人の側が「ゆっくり」、「ゆったり」とした話し方で話す。
- お子さんと話す際に、お子さんの話す速さと同じが、少しゆっくり目ぐらいの速さで話す。
子どもが話し終わってから、一呼吸置いてから子どもに話しかけるようにする(発話と発話の間に十分間を取りながら関わる)
- 子どもがお話している時は、相づちやうなづきなどをしながら、出来るだけ最後までお話を聞く。子どもがお話をし終えるまで、大人の側から、別の話題などを話さないようにする。
- 家事などで忙しい時は、「あとで、お話を聞くから待ってね」などと言い、あとで必ずお話を聞く時間を設ける。
- 兄弟同士で、保護者に対して先を争うように話しかけるような状況がある場合は、「順番に話す」というルールを設け、発話の最中に話を割り込まれることがないようにする。
- 子どもに対して「ゆっくり」、「落ち着いて」などの声かけは極力控えるようにする。生活全般をゆったりと落ち着いたものにする
- 毎日の生活にゆとりをもたせるために、早寝・早起きなどの規則正しい生活習慣の確立や、朝や夕方などの忙しくなりがちな時間帯の過ごし方を見つける。
- 休日や放課後などに、予定(お稽古ごとなど)を入れすぎないようにする。
- 短い時間で良いので、毎日の生活の中に、子どもと保護者とで一対一でじっくりとかかわる時間を設ける(たとえば、夜寝る前や、お風呂の中、学校や園から帰ってきておやつを食べる時間など)

遊びのお部屋

子どもは絵本を読んでもらうのが大好きです。絵本を読んで貰っている子どもたちは目を輝かせ物語の中に入り込みます。子どもは想像の世界で遊ぶのが得意なため、物語の主人公になり、その体験をした気持ちになりストレス発散をしています。コロナ禍で外遊びが十分できない日々。好きで何度も手に取っている絵本は、その子が今、必要な絵本なのだと思います。ぜひぜひ、一緒に読みながら子どもの気持ちに寄り添ってあげてください。(スタッフ:M)



<お知らせ>

3月土曜日の相談受付日について、通常、第3土曜日の3/20ですが、春分の日のため3/27に変更となります。

お間違いないよう宜しくお願い致します。

澁川市こども発達相談室スタッフ一同